



国際化

会長 岩崎 昇三

新年あけましておめでとうございます。本年は、本学会にとって創立75周年を迎える記念すべき年であります。いろいろな記念行事、事業が計画されておりますが、とりわけ国際交流基金の設立は時宜を得た素晴らしい企画であると思います。

国際という言葉は、inter-nationalの訳で、国と国との間の交流を意味すると思うのが一般的であり、我々が国際学会などに行くときにも、日本を代表しているという意識が多少なりともあったと思います。今でもこうした意識は大切ではありますが、最近では、国際をトランスナショナル(trans-national)と訳す例が増えてきたと聞いております。トランスナショナルとは、市民が国境を越えるという程の意味であり、国際化時代に生きる我々としては、自国民に対すると同じように、海外の人々との気軽な普段着での交流を目指すことが大切であると思います。

科学技術庁の資料によりますと、最近の我が国の学術論文の生産数、被引用数の、世界におけるシェアは、いずれも米国、イギリスに次いで第3位となっております。また、その増加の勢いは他に例を見ない程急激なものであり、我が国の学術論文の水準は、既に世界のトップレベルに達しているといえましょう。

しかしながら、国内で発行される学術論文誌に発表された論文については、海外で引用される機会が少なく、また、国内誌への海外からの投稿も少ないのが現状です。世界のトップレベルの学術論文を持ちながら、言語の壁のためにトランスナショナルな交流が阻害されていることは誠に残念なことです。

本学会では、諸先輩の皆様が早くからこの問題に取り組まれた結果、今年1月から英文論文誌の改革が行われることになりました。本学会誌が国際的な学術雑誌として広く認められるように努めることも、我が国における先導的な学会である私どもの責務であると思います。会員各位には、英文誌への積極的な投稿をお願いすると共に、本学会誌が世界のリーディング・ジャーナルとしてますます高い評価が得られますよう御協力をお願いして新年のごあいさつと致します。